

【糖尿病・代謝・内分泌内科】

1. 研修指導責任者 藤原 敏正
指導医 藤原 敏正

2. 定員 2名まで

3. 基本的目標

代謝・内分泌は、全身の臓器の統合的な制御にかかわっている。従って、糖尿病・代謝・内分泌性疾患は全身の臓器を侵しうる疾患あり、内科一般の広い基礎を持ち、患者を全身的にとらえることが必要である。内科一般の知識を持ち、かつ糖尿病・代謝・内分泌性疾患の病因、病態を把握し、その診断と治療を理解し、必要に応じて専門医に適切に紹介できる医師を育てることを目標とする。あわせて、老年者医療の特色について理解する。

4. 具体的目標

- (1) 糖尿病の発症機構、病態と合併症について理解する。
- (2) 糖尿病の診断が適切にできる。
- (3) 糖尿病患者の診察が適切にでき異常を的確に指摘できる。
- (4) 糖尿病患者の救急疾患について適切に対応できる。
- (5) 甲状腺疾患、特に甲状腺機能亢進症(バセドウ病など)の病態、診断、治療を理解する。
- (6) 副腎性疾患(Cushing 症候群、原発性アルドステロン症、褐色細胞腫など)の診断、治療を経験する。
- (7) 間脳・下垂体系疾患(末端肥大症、尿崩症など)の病態、診断、治療を理解する。
- (8) 動脈硬化症における高脂血症の意義を理解し、病態を把握する。
- (9) 高脂血症の治療管理をガイドラインにしたがっておこなう。
代謝・内分泌系の制御機構について理解する。
- (10) 肥満症の病態と治療を理解する。
- (11) 老年者の病態的特徴とその診療について理解を深める。
- (12) 一般内科学的診察 特に理学所見、皮膚所見、神経所見
血算、凝固検査の結果の理解、一般生化学検査、内分泌・糖代謝・脂質代謝検査の理解、内分泌負荷試験の解釈。
- (13) 動脈硬化の診断(頸動脈超音波検査、脈波検査など)

(14) 内臓肥満の評価(CT、腹部超音波法など)

5. 経験した方がよい主要疾患

(1) 内分泌 :

バセドウ病、末端肥大症、中枢性尿崩症、Cushing 症候群、
原発性アルドステロン症、褐色細胞腫、原発性副甲状腺機能亢進症、
骨粗鬆症

(2) 糖代謝 :

1,2 型糖尿病、糖尿病性ケトアシドーシス、糖尿病合併妊娠、
糖尿病性末梢神経障害、インスリノーマを含む低血糖発作、糖尿病性腎不
全、
ネフローゼ症候群

(3) 脂質代謝 : 家族性高脂血症、続発性高脂血症、肥満症

6. 週間スケジュール

火曜日 症例検討(毎週) 甲状腺超音波検査 頸動脈超音波検査

木曜日 放射線科での画像読影

金曜日 抄読会、回診 糖尿病教室(隔月)